

みなさんは、お世話になっている方への手土産を選ぶ際、どのようなことを大切にされていますか？
手土産は、相手を敬い、感謝やあいさつの気持ちを込めた贈り物です。
今回は、大切な相手に喜んでいただくために、知っておきたい「手土産」のマナーをご紹介します。



品物の選び方

- 【友人・知人に渡す場合】 家族構成や年齢層、好みなどを考慮して選びます。
事前に食物アレルギーの確認ができる場合は、配慮します。
- 【取引先に渡す場合】 焼き菓子や日持ちのする和菓子は、幅広い年代に喜ばれるためおすすめです。
配りやすいように個包装のものを人数より少し多めに用意しましょう。



渡し方のポイント

○ 渡す場所とタイミング

- ・玄関先で渡すのは基本的に NG。部屋に通され、あいさつの後、着席前に渡すのがマナーです。

○ 感じのよい渡し方

- ・紙袋から取り出し、先方から見て正面になるように渡しましょう。
- ・相手に配慮し、紙袋のまま渡す時は「紙袋のまま失礼します」とひと言添えます。
その際は、新しい手提げ袋に入れましょう。渡す時は紙袋の取っ手を持ち、底に手を添えるとスマートです。
- ・「心ばかりですが、皆さままでお召し上がりください」「お好きだと伺ったので、お持ちしました」などの言葉を添えると、会話のきっかけが作れます。



熨斗（のし）について



熨斗は、贈り物に添える飾りを指し、のしと水引が印刷された紙や袋を「のし紙」「のし袋」と言います。「のし紙」は、贈り物に込めた感謝や敬意を形式的に表す日本独自の文化です。「のし紙」をかける場合は、用途に合わせた体裁を整えることが大切です。
ビジネスシーンで選ぶ水引は、何度あってもよいという意味を持つ「紅白蝶結び」が一般的です。
表書きは、「御礼」「御挨拶」など、訪問の目的に沿った言葉を記載しましょう。

参照：日本人の礼儀作法のしきたり(板倉晴武 監修)

相手に喜んでいただける心遣いを手土産に込めましょう。

